

Events

オープニングセレモニー

日時 2019年2月15日(金) 13:00-13:30

会場 秋田市にぎわい交流館AU 1階 まち発見・発信ステーション

芹沢高志による公開講評

日時 2019年2月15日(金) 18:00-20:00

会場 秋田市にぎわい交流館AU 3階 多目的ホール

概要 修了展会場を巡りながら、大学の客員教授である芹沢高志氏による公開講評を行います。

ステージイベント

「あきた舞妓を輝かす ～銀の花々 秋田銀線細工～」

日時 2019年2月16日(土) 15:00-16:00

会場 秋田市にぎわい交流館AU 1階 まち発見・発信ステーション

企画 高橋香澄

概要 修了研究として制作した秋田銀線細工の帯留めと簪をあきた舞妓さんに身につけていただき、ステージで踊りを披露していただきます。また、演舞だけではなく、舞妓さんとのお座敷遊びや写真撮影なども予定していますので、ぜひこの機会に秋田の文化と工芸に触れてみてください。

修了研究発表会

日時 2019年2月18日(月) 18:00-21:00

会場 秋田市にぎわい交流館AU 3階 多目的ホール

概要 大学院生9名がそれぞれの修了研究についてのプレゼンテーションを行います。

なにか

日時 不定期

会場 秋田市にぎわい交流館AU 3階 多目的ホール 他

企画 蛭間友里恵

概要 現地にてなにかを行います。

関連イベント

「応答」～SUMMER STATEMENT 2018 報告とその後～

会期 2018年12月15日(土)～2019年2月24日(日) 9:00-18:00

会場 秋田公立美術大学ギャラリー BIYONG POINT (秋田市八橋南一丁目1-3 CNA秋田ケーブルテレビ社屋内)

アーティスト 寺岡海、神馬啓佑、船川翔司、来田広大

企画 藤本 悠里子

概要 本展覧会は大学院2年生の藤本 悠里子による修了研究プロジェクトの一環です。2018年9月に関西圏を拠点に活動するアーティスト4名を秋田に招聘しアーティスト滞在企画「SUMMER STATEMENT 2018」を行いました。本展では滞在の記録、そしてアーティストと企画者による活動の成果を「SUMMER STATEMENT 2018」への応答として発表します。修了研究展と合わせて、ぜひご来場ください。



複合芸術研究科とは……

秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科は、新設の大学院として2017年4月に開学しました。複合芸術研究科では、事象の成り立ちについて複合的に考える視点を持つことを基本とし、複数の既存の領域を横断した先に新しい領域を切り開き、アートや社会における諸問題に対してこれまでにない回答を提示することのできる研究・表現を目指します。本研究科は少人数制で、アートやデザイン、工芸、社会学、情報学、アーバン・スタディーズなどの領域で個別の表現手法を修めた学生が集まり、それぞれが自身の専門性を活かしながら、いくつかの領域を横断し、それらを独自の方法で再構築することを試みています。また、複合芸術の実践として、カリキュラムにおいてはグループワークでの実習が設定されており、領域の異なる学生同士が対話を重ねて得た結論を実践へと結び付けます。

本学大学院のHP、Facebook、Twitterで随時情報を公開していますので、ぜひご覧ください。



HP



Facebook



Twitter

後援：
秋田市 | 秋田魁新報社 | NHK秋田放送局 | ABS秋田放送
AKT秋田テレビ | AAB秋田朝日放送
CNA秋田ケーブルテレビ | あきびネット

秋田市にぎわい交流館AU
秋田市中通一丁目4番1号

アクセス：
・秋田駅西口から徒歩10分
・車2分 駐車場有 隣接しているなかいち駐車場をご利用ください。
一般利用者1台1時間につき100円 ※30分まで無料
・最寄のバス停 千秋公園入口(広小路側)、
中通一丁目または中通二丁目(中央通り側)

複合芸術研究科

Mamoru Ogiso, Kaori Sasaki, Ryohei Suga, Kasumi Takahashi, Karin Tanaka, Junko Tanaka, Kanae Tsukamoto, Yurie Hiruma, Yuriko Fujimoto

小木曾 護・佐々木 香里・須賀 亮平・
高橋 香澄・田中 夏鈴・田中 絢子・
塚本 かな恵・蛭間 友里恵・藤本 悠里子

異なる専門性を持つ相手に
どのような話し方をすれば
良いのか？ チームの中で
自分はどのような役回りをするべきか？
どれくらい自分のやり方にこだわって
良いのか？ 自分だけが持っている技術・考え方は何なのか？
それぞれの専門性が持つエッジを残しつつ共にいることは可能なのか？
はたしてその先に新たな創造の可能性を導き出せるのだろうか？

2019年2月15日[金]—19日[火]
あう
秋田市にぎわい交流館AU 3階多目的ホール

開場：10:00 閉場：18:00 (最終入館17:30まで)

※初日のみ開始時刻13:00から ※最終日のみ最終入館16:30まで 入場料：無料 | 休館日：なし

企画：秋田公立美術大学大学院1期生 | 主催：秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科
協力：グラフィックデザイン=仲村 健太郎 | 会場構成=工藤浩平建築設計事務所
問い合わせ：秋田公立美術大学事務局 学生課 Tel: 018-888-8105 (平日 8:30-17:15)

秋田公立美術大学 大学院 修了研究展

複合芸術研究科

秋田公立美術大学
大学院
修了研究展

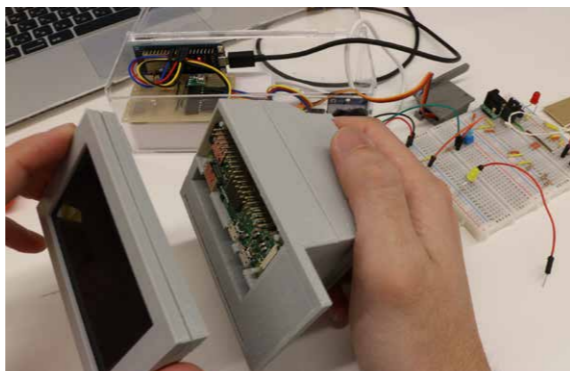
私たち1期生は様々な領域の知識や技術、考え方と交わりながら個々の研究を深める中で、複数の問いを投げかけられてきました。異なる専門性を持つ相手にどのような話し方をすれば良いのか、チームの中で自分はどのような役割をするべきか、どれくらい自分のやり方にこだわって良いのか、自分だけが持っている技術・考え方は何なのか、それぞれの専門性が持つエッジを残しつつ共にいることは可能なのか。はたしてその先に新たな創造の可能性を導き出せるのだろうか。

複合芸術研究科1期生による修了研究展では、このような問いかけの中で様々な要素と結ばれ、そして磨かれた9名の研究成果を発表します。異なるように思える個々の研究を観察し、9つの領域を横断した後に、ようやく「複合芸術」のかたちがり立ち現れるでしょう。

Works

- 小木曾 護
- 佐々木 香里
- 須賀 亮平
- 高橋 香澄
- 田中 夏鈴
- 田中 絢子
- 塚本 かな恵
- 蛭間 友里恵
- 藤本 悠里子
- Mamoru Ogiso
- Kaori Sasaki
- Ryohei Suga
- Kasumi Takahashi
- Karin Tanaka
- Junko Tanaka
- Kanae Tsukamoto
- Yurie Hiruma
- Yuriko Fujimoto

検索するものづくり 小木曾護



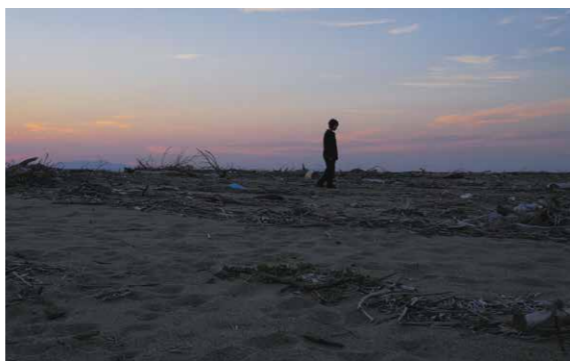
近年のメイカースムーブメントやDIYの流れから、様々なデジタルファブリケーションの作例がネット上で共有されている。つまり、共有された作例をアレンジすれば、専門知識のない人でも様々なものづくりを行うことが可能だと言える。その行為を二次創作として捉え、デジタルファブリケーションの今後の問題や展望について模索する。

現代日本における性別の価値体系についての考察 —腐女子の視点から— 佐々木香里



本研究は、BLを中心としたマンガにおける性別表現に対する考察と筆者自身の性別にまつわる個人的な省察を通して、現代日本における性別の価値体系について考察することを目的とする。その手法として、論考「青少年マンガとBLの関係性」とエッセイ「『ぼく』の来し方行く末」をワンセットとし、互いに補い合う文章の在り方を撰択している。

「凧の国」制作報告 —フィクションとノンフィクションにより止揚する風景— 須賀亮平



あるひとつの風景の中にフィクションが反映された風景とノンフィクションが反映された風景があるとき、別々のものとして存在するそれぞれの風景が、発展的に統一化して新たな風景として現れることがある。アンドレイ・タルコフスキーの映画「ストーカー」を参照し、それをひとつの表現として捉え、制作した映像作品「凧の国」を発表する。

「凧の国」上映スケジュール
◎10:00～ ◎11:20～ ◎12:40～ ◎14:00～ ◎15:20～ ◎16:40～
※初日のみ：◎から ※最終日のみ：◎まで

秋田銀線細工の制作と発展 —伝統工芸のこれからの未来を切り拓くための挑戦— 高橋香澄



秋田銀線細工とは、秋田県指定の伝統的工芸品であるが、現在様々な問題を抱えており衰退の一途を辿っている。本研究では、存続の危機に陥っている秋田銀線細工の現状と課題について調査し、今後振興していくためのシステム作りや他分野との共同制作を行いながら、製品の多様化を図るような取り組みを行っている。

在留外国人と日本の市民が協働する社会創造活動の可能性 ～秋田県における「多民族の共生」の調査と協働活動の実践から～ 田中夏鈴



日本社会が抱える多文化状況の多様な課題を克服するための手段について、在留外国人と日本の市民が協働する社会介入型プロジェクトの実践を通して探る研究。秋田県で実践したプロジェクト『ハナコトバ』のなかで得られた経験と考察をもとに、将来的に日本が迎える新移民時代の市民社会のあり方への手がかりを提案する。

若者の生活に寄り添う工芸 —ライフスタイルからの提案— 田中絢子



近年、工芸に関心のある若者が増えてきている一方で、食卓で工芸品を「使う」機会は減ってきているように感じる。このことから、自身の専門領域である漆器を中心に、工芸品を「日常に馴染むあたりまえの食器」として活用してもらうため、工芸品があるライフスタイルやライフサイクルをイメージできる場の提案の研究を行っている。

絵画制作における反復—トラウマの表現について 塚本かな恵



本研究は、反復・絵画・トラウマの3点を軸に据え、芸術実践（主に絵画制作）において用いられる「反復」という手法が持つ意味や効果、あるいは解釈の幅を広げることを目的としている。現在、皮膚をモチーフとした作品制作を行っており、描画したキャンバスを解体し、それを縫い合わせて再び1枚のキャンバスにしていく手法での制作を進めている。

現代アートと他分野との間に立つ仲介者のあり方 ～地域型アートプロジェクトの現場調査から～ 蛭間友里恵



アートプロジェクトの運営プロセスには、アートを専門とする立場とアートとは異なるとされる立場の価値観があり、双方の視点から状況を捉えることが重要であると考え現場リサーチを実施した。プロジェクトに対する関わり方は開催地域の中で多様に存在し、著名な方や運営者に限らずインタビューを行った。その生の声を手がかりに、必要であるとする仲介者像を展開する。

展示会の外にあるアーティストの創作活動との交差 —アーティスト秋田滞在企画「SUMMER STATEMENT 2018」の実践から— 藤本悠里子



「展示会」には現れないアーティストの思考や言葉、出来事に目を向けるため4名の現代美術家を秋田に招聘し、滞在企画「SUMMER STATEMENT 2018」を実践、またプロジェクト報告展を開催。これらの活動を経て、アーティストによる新しい表現が生まれる現場をどのように創造できるか、キュレーターはアーティストの創作活動にどのように関わることが可能かを探る。